

これは生徒個人に渡るのではなく朝鮮学校に渡る。いわゆるつかみ金である。いっそうごまかしやすい。大阪の橋下知事は「金親子の肖像画をはずせ」「朝鮮総連と手を切れ」の二つを示し、この条件が入れられないかぎり毎年出している大阪府の「補助金」約二億円は支出しな

いといっている。この大阪の例にならって各地で裁判を起こして補助金を打ち切らせる動きも出つつある。心ある在日朝鮮人も朝鮮総連とたたかうために日本人との提携を望んでいる。「光射せ！」はそのためにいつその役割が期待されている。(二〇一〇、十一、十五)

朝鮮学校に対する自治体補助金一覧
平成 21 年度実績 (単位: 千円)

	都道府 県補助	市区町 村補助	合 計	備 考
北海道	6,296		6,296	●初中高級学校 1
宮城県	1,544		1,544	初中級学校 1
福島県	2,444		2,444	初中級学校 1
茨城県	2,385		2,385	●初中高級学校 1
栃木県	1,700		1,700	初中級学校 1
群馬県	2,537	464	3,001	初中級学校 1
埼玉県	8,975	11,589	20,564	初中級学校 1 幼稚園 1
千葉県	5,620		5,620	初中級学校 1
東京都	23,570	90,250	113,820	●中高級学校 1 初中級学校 9 大学校 1
神奈川県	72,476	16,028	88,504	●中高級学校 1 初級学校 4
新潟県	1,159	861	2,020	初中級学校 1
福井県	297	253	550	初中級学校 1
長野県	2,597	2,048	4,645	初中級学校 1
岐阜県	2,912	903	3,815	初中級学校 1
静岡県	1,373		1,373	初中級学校 1
愛知県	22,207	8,843	31,050	●中高級学校 1 初級学校 4
三重県	3,000	1,735	4,735	初中級学校 1
滋賀県	1,975		1,975	初級学校 1
京都府	33,045	13,600	46,645	●中高級学校 1 初級学校 3
大阪府	185,111		185,111	●高級学校 1 初中級学校 10
兵庫県	139,563	48,604	188,167	●高級学校 1 初中級学校 6
和歌山県	4,050		4,050	初中級学校 1
岡山県	243	1,929	2,172	初中級学校 1 幼稚園 1
広島県	13,801	13,929	27,730	●初中高級学校 1
山口県	2,250		2,250	初中級学校 1
愛媛県	600		600	初中級学校 1
福岡県	8,000	5,900	13,900	●中高級学校 1 初級学校 2 幼稚園 1
合 計	549,730	216,936	766,666	

※ 救う会 全国協議会 ホームページ
http://www.sukuukai.jp/report02.php?itemid=2314 から
※ 文部科学省資料を基に作成。
※ 「備考」は救う会にて補足。●印は高級学校。後ろの数字は学校数

元朝鮮学校
生徒が赤らら
に語る!!

朝鮮学校の「民族教育」は 授業料無償化に値しない

朝鮮高校修了生 元 智 慧

朝鮮学校が行っている「民族教育」について、それを実際に受けた者以外にその実態を知る者は少ない。正確に言えば、「民族教育の恐ろしさ、愚かさ」というべきであろうか。

私自身、幼稚園から高校まで過去十五年におよぶ歳月を、朝鮮総連、そして民族学校に属していた。

思い起こせば、ともに「教育」というものに接した経験は成人を迎えるまで皆無だったのかもしれない。なぜならば、朝鮮学校が声高に叫んでいる「民族教育」などという代物は、「教育」というものとはまったくもってかけ離れているといっても、決して過言ではないからで

ある。

当初、在日同胞のための純粋な想いから始まった民族教育。異国の地においても、民族の言葉や歴史を学び、誇り高く生きていくための理念はやがて簡単に覆され、その目的は大きく捻じ曲げられた。そして、当時台頭しつつあった金日成を神と崇め、その他いっさいの異なる価値観を認めない、唯一絶対思想をもとにした、歪んだ「教育」の場と化していった。

朝鮮高級学校（朝鮮高校）の授業料無償化は非が審議されるなか、無償化除外は妥当とするその理由を、個人的体験をもとに綴ることとする。

朝鮮学校は「各種学校」

まず前提として、朝鮮学校が叫んでいる「民族教育」などは、実際民族でも教育でもないという点が何よりも重要である。

北朝鮮に関するさまざまな報道がなされるなかで、朝鮮学校の実態が報道されたことは、ここ最近までほとんどなかった。報道などで、朝鮮学校の教師たちが「現代朝鮮史等の授業以外、日本学校のカリキュラムとなら変わりありません」という妄言を繰り返しているが、それならばなぜ現在にいたるまで朝鮮学校は、学校教育法でいう第一条校（注・教育法第一条で規定された学校のこと。条文11はページ下段にある）ではなく「各種学校」なのであろうか。

日本政府は、朝鮮学校を専門学校等と同じ扱いである「各種学校」として定めている。高校無償化自体がなんのための政策であるかはっきりしない部分がなきにしも非ず、であるが、少なくとも「各種学校」の無償化とはうたっていない。

また、朝鮮学校の教壇に立つ者たちのほとんどは、国内における法的な教員免許をもたない。現在では、若干

追記ではあるが、「民族教育」の売りのひとつに言語習得（朝鮮語）がある。結論からいってこの在日朝鮮語はネイティブにはまったく通用しない。実際問題、韓国人が在日同胞の「朝鮮語」を聞いても、ほとんど理解不可能という例は多々ある。

まったく使えない言語習得に多くの時間を割き、人間形成に大きな歪みをもたらす歴史教育や日常的な暴力。

これは、「各種学校」にさえも値しないと思うのは、おそらく私だけではないだろう。

捏造された歴史

金日成の『現代朝鮮革命歴史』（編集者注：現在は『現代朝鮮歴史』と、革命の文言はなくなっている）と金正日の『愛の日々』は、筆者の在籍した一九九五年ごろ当時毎日のようにカリキュラムに組み込まれていた。

授業形式は、彼らの「偉大性」を学び、各自それを最高に「称える」事によって勧められた。異論を唱える事は決して許されない。

当時はわからなかったが、当然それらの内容すべて完全なる捏造である。内容もさることながら、掲載写真もみごとに合成されていた。

の例外があるとはいえ、ほぼすべての教員は「各種学校」である朝鮮大学校を卒業し、教員としての資質すらもち合わせていない。彼らは、そこでさらに徹底された思想統制と日本社会との隔離のもと、「勉強」に励み、卒業後は各赴任先へと向かう。

当時、校内では教員の生徒に対する暴力は日常茶飯事であった。というのも、朝鮮学校は外からの監視（PTAや教育委員会等）がないので、あらゆる非合法が許された。ある者は入院し、ある者は退学し、またある者は自殺した。私も北朝鮮や総連を非難して暴力を受け、あるときは訳もなくしばしば殴られた。このように、朝鮮学校の教員たちには、人間的に問題がある場合が少なくない（組織そのものに問題があるので、当然と言えば当然である）。

そんな彼らが指導する授業、ことに歴史教育はきわめて不誠実なものであった。朝鮮学校で使われている歴史教科書（特に、現代史や金日成・金正日の教科書）を一度でも目を通した人は、そのあまりの虚構ぶりに目を疑うであろう（この二つの教科書だけは、特別良質の紙が使われた）。朝鮮学校が現在においても第一条校として認定されない理由は、上記を見るだけでもはつきりしている。

本物の写真と捏造の写真



この2つの写真は1945年10月14日、同じ場所、同じ時間帯に撮られたもの。

（右）旧ソ連秘密資料から出てきた本物の写真。

（左）現在朝鮮高校で使われている教科書。バックのソ連将校の姿と胸のスターリン勲章が消されている。

前者では、金日成が戦後スターリンの傀儡としてソ連軍とともに祖国に「凱旋」する様子も、それを見た民衆のあいだで、独立運動のために闘い、すでに伝説となっていた、「本物」の、しかも老齢の金日成将軍ではないと騒動となっている凱旋時の様子も、当然掲載されていない（伝説の金日成将軍は、一九一〇〜二〇年代に朝鮮独立運動で活躍したとされ、凱旋した「金日成」将軍はあまりに若くどう見て

も三十代であったので、民衆は不審に思った。

したがって、『現代朝鮮革命歴史』で教える朝鮮半島植民地時代の金日成の活動は、すべて作り話である。彼が、この時代に祖国朝鮮のために戦った事実が皆無である事は現在では常識である。祖国で民衆が苦しむなか、彼が戦時中朝鮮入りした事はただの一度もなく（彼はそのころ満州にいた）、『愛の日々』で美化され朝鮮で「誕生」したとされる金正日も、朝鮮ではなくソ連で生まれている。

スターリンとの「面接」に合格した偽りの「金日成（本名…金成柱）」は、北朝鮮がソ連の属国となるにはたいへん都合がよかった。本来の意味で「独立」ではなかった。朝鮮半島（現在でも米軍が駐留する韓国も同様）の悲劇の歴史はここからすでに始まっていた。

歴史の捏造はさらに続く。

光復（北朝鮮や韓国では、植民地解放をこう呼ぶ）から五年後の一九五〇年、甚大な悲劇を巻き起こす朝鮮戦争が勃発。米ソの冷戦を背景に、ソ連軍・中国義勇軍の援護を受け北朝鮮軍は南侵を開始。大韓民国（韓国）も米軍の援護を受け、血で血を洗うこの南北の対立は結局三年の不毛な戦争を経て、現在にいたるまで両国は休戦

であると教えている矛盾。

歴史だけではない。音楽の時間に習う歌は、すべて革命歌や金日成・金正日を讃美するもの。伝統的な歌までもが、戦後、歌詞が書き換えられ、彼らを美化するものとなっている。親たちは何を信じ子どもたちを朝鮮学校に通わせ、また生徒たちは何を考え、このような場所に通っているのか、私にはまったく理解できないが、それを気づかせないほどの洗脳教育が、「民族教育」の実態なのである。

日本人拉致事件発覚以降、朝鮮学校はいちおう表面的には変化があるように見える。小学中学では金日成と金正日の肖像画は取りはずされ、またそれまでの異様な唯一絶対思想教育も薄れたとされるが、それはカモフラージュにすぎない。

報道に登場する朝鮮学校教師は、「拉致事件に関して、誤った事だと教えている」と話しているが、教科書を見れば、「でっち上げ」と云わんばかりのことが、執拗に羅列されている。

やはり、歴史は正しく教えるべきである。

朝鮮学校は朝鮮総連幹部養成所だった

教育とは個人の自己実現を最大限あと押しするはずで

状態が続いている。

朝鮮学校の教科書では、「大韓民国と米軍が北侵し、北朝鮮はそれを死守した」と記されている。歴史の流れから見ても明らかに矛盾しているが、現在でもこのように教えられている。その後、北朝鮮は世界を舞台にテロや工作活動を繰り広げ、在日韓国朝鮮人の北鮮（ほくせん）当時、日本では北朝鮮をこう呼んだ）帰還、ラングーン事件、大韓航空機爆破事件、さらには韓国人や日本人拉致工作等の悲劇を巻き起こしていく。

教科書では、それらすべてを米国、韓国、日本などの北朝鮮に対する敵視政策によるでっち上げだと謳い、それらの国や民を憎むように教育されている。

総連は「教科書は北朝鮮と関係ない所で製作され」、また「自分たちも北朝鮮とは一線を引いている」などとメディアを通じて言っているが、総連はまぎれもなく本国北朝鮮の傘下であり、すべては金正日の指示のもとに動いている。

日本の軍国主義や天皇崇拜を批判しつつ、片や金王朝に対する偶像崇拜は現在でも行われ、教育の現場はさながら狂信集団と化している。そして、祖国統一とうたいながら、一方で同胞である韓国は忌み憎むべき存在で敵

あるが、朝鮮学校の場合は事情が異なる。

当時私は、進路のために日本の高校へ進学したいと希望したが、許されるはずもなくあらゆる手段でそれは妨害された。あるときは、学校長から個人的に呼び出され、数時間におよび訊問され精神的に追い詰められた。朝鮮学校職員であった私の父にも脅迫がおよび、家族で耐え忍ぶ日々が続いた。

そして、自分の知らない所で朝鮮高校への願書が作成され、私の進路は無残にも崩れ去ってしまったのだ。

この事は、その後の総連や朝鮮学校に対する自分の意識をいちじるしく変える大きな出来事であったと同時に、「民族教育」の本質が浮き彫りになった瞬間でもあった。

このように、「民族教育」とは名ばかりであり、とても人材育成といった機能はもち合わせていないのである。

当時の朝鮮高校では、高校二年と三年時に一週間の合宿が行われた。生徒たちが進路で悩むところを見計らった計画的なもので、その実態は朝鮮大学校への進学を強要するものであった。

朝早くから夜遅くまで、終日金日成の主体思想や偉大さについて叩き込まれ、国家への忠誠心を幾度も強調される。そこで少しでも疑問を投げかけようものなら、教

職員や同級生から信じられないほどの非難を浴び、自己総括させられる。

とくに自分の将来について考えない者は、ここで驚くほど簡単に洗脳され朝鮮大学校への進学を決めてしまい、合宿以前とはまるで違う人格になっていた。

私の友人の話をしよう。

日本の大学への進路を希望していた私の友人は、当然受験予備校等へ通っており、ある時学校のイベントと重なり欠席を申し出たが叶わなかった。しかし、合宿直後ということも災いし、クラスで彼の意識を徹底的に改造させようとする時がもたれた。

数時間も非難される彼を私は弁護したが、そのうち私までも反社会主義的だと、不当に弾劾されることとなった。

彼のプライドは弄ばれ、私を含む彼の仲間たちはその後幾度も教師たちに反発しては、その度に執拗な暴力を彼らから受ける事となっていた。

現在では消滅したとされるが（真偽は定かではない）、当時は「学習班」という非公然組織も存在した。公安当局からも監視されるその実態は、上層部が選りすぐった人物を組織のエリートとするためのものであり、いわゆる

どうでもいいのだ」と。

このように、朝鮮学校は朝鮮総連幹部や作業員の養成所であったといっても、過言ではない。

朝鮮総連と「本国」北朝鮮

朝鮮学校は朝鮮総連や北朝鮮の指示にもとづき動いている訳であるが、この蜜月の関係によって巻き起こされた悲劇は数限りない。

現在、脱北者が後を絶たないが、その多くはかつての北朝鮮帰還事業により海を渡った人たちである。彼らは、「地上の楽園」と言った朝鮮総連の嘘八百の宣伝を信じ、貧困や差別からのひとすじの光を求めて、この話に乗った。これを推進したのが日本の諸政党および朝鮮総連であり、その背景には完全なる個人崇拜を確立するためにおこなった血の粛清に非難を浴びた金日成が、起死回生を狙い内外に個人的名声をアピールするためのもくろみがあったとされる。

日本としても、在日が置かれている状況に同情すると同時に重荷になっていた部分もあり、金日成にとっては労働力確保といった意味合いもあった帰還事業は両者の利害が一致し、大規模に実現していくこととなる。

る裏組織であった。

通常のカリキュラムとは別に特別な教育を受ける、さしづめ精鋭部隊といったところか。彼らは、北朝鮮の作業員となるべく金日成主義を徹底的に叩き込まれ、すべての者が朝鮮大学校に特別枠（授業料その他すべて免除）で入る。

そしてその後、当局の指示のもと、対日工作や対韓工作などさまざまな型での工作活動に加担していくのだ。朝鮮高校に入学して間もなく、私もそのかかれその一員となったが、実態を知り、ほどなく辞めた。

数年後、北朝鮮による拉致事件が発覚し、在日同胞の失望は頂点に達する。北朝鮮の作業員とともに加担したのが上記のような在日の作業員も含まれていたこともしだいに明るみに出た。

この時初めて、朝鮮総連の悪辣な本質を知った同胞も多く、朝鮮学校に入学する者は激減した。

しかし、その後数年を経ても傍若無人に存続している総連と朝鮮学校。もはや、彼らに良心というものは存在しないのであろうか。

ある教員が私にこう話した。「民族教育は、北朝鮮と総連のための幹部を養成するもの。個人の資質や将来など

帰国した者のなかには、強制収容所に送られた人、対南工作や原爆製造などに加担した者も多くいる。

そして、日本に残った家族にも悲劇は続き、北に渡った家族の命はないと総連から多額の寄付を強要され、身ぐるみ剥がされた人も後を絶たず、その人たちは人生をも奪われた。

一九六〇年当時、金日成の神格化は急速に進められ、それは民族教育にまで当然のごとく及んだ。

やがて、教室には彼の肖像画が掲げられるようになり、民族教育の当初の純粋な目的は、ここで終止符を打たれることとなる。

それは、一九七〇年代を中心に行われた日本人拉致事件へと発展する訳であるが、このような構図は現在にまで続いている。

在日同胞も声を上げるべき

北朝鮮の世襲後継が行われ国際世論の非難を浴びるなか、在日社会も変化しなければならない時がきている。

北朝鮮はもとより、朝鮮総連のこれまでの蛮行は目に余るものがある。手段を選ばず獲得した特権や、朝銀（総連の傘下にある金融機関）を通し同胞から巻き上げた金

銭を、北朝鮮へ送金し続けてきた。

あの独裁国家を支えてきたのは、在日社会でもあるのだ。

思えば、一九一〇年の朝鮮併合以来、悲劇は現在にまで続いている。三十六年間の日本統治時代、朝鮮戦争、南北分断、帰国運動の悲劇など、そして極めつけが拉致事件発覚であり、在日同胞にとっても衝撃であり大いなる失望であった。

私は、ほかではない、在日同胞にも申したい。

これまで、在日が歩んで来た道程は厳しいものであった。

拉致事件以降、韓国籍に変える人、帰化した人は数知れず、それはそれで可能な限りの抵抗であるという見方もできるが、私はやはり自分さえ関わらなければよい、という在日のありかたにも疑問を呈する。

在日の皆様（帰化した人も含めて）、拉致事件をこのまま何も進展がないまま放っておくつもりですか？

北朝鮮のような野蛮な国家を、ただ眺めているだけで何か？ 朝鮮総連の実態を内外に告発するべきではないですか？

そのような邪悪な物から、わが子を守るべきではない

ですか？ ただ組織から離れて自分の道を歩めば、それでよいのですか？ そして、何も行動を起こさないつもりですか？

日本の方にも聞きたい。我々のすぐかたわらにこのような学校という名の工作員養成所が存在するというのは、恐ろしいかぎりではありませんか？ 無償化云々以前に、存在そのものを消す必要があると思いませんか？

少なくとも、往時の純粋な在日同胞のための誇り高き教育を取り戻せないのであれば、総連や民族教育は害悪である以外の何者でもない。

私は、授業料無償化の議論より、在日のための組織ではない北朝鮮のためのスパイ組織を消滅させねばならないことが喫緊であると確信する（もちろん、さしあたっては無償化断固反対である）。

心ある在日同胞の皆さん、いまこそ立ち上がるうではありませんか！

そして、心ある日本の皆様から、そのためのお力添えをいただきたい所存である。

（二〇一〇年十月三十一日）

朝鮮学校教育の抜本的改善を求める

総連への要望書

（一九九八年十二月五日）

東京朝鮮中高校・新校舎建設委員会 提出

一九九八年十二月に在日朝鮮人から朝鮮総連に出された民族教育改善のための要望書を抄訳して紹介します。全文はハングルで約四万字。東京朝鮮中高級

学校が一九九八年十二月に十三億円かけて新築され、三五〇〇人の在日朝鮮人から寄付金が寄せられた、といっています。その機会に教育内容も改善せよとの趣旨で出されたのがこの「要望書」。総連はこれに耳を貸さず、起草者などの、犯人探し、や弾圧に終始しました。

朝鮮総連直営の朝鮮学校は、民族教育と称しながら北朝鮮の独裁体制と金親子をたたえる教育が中心。日本に住む実情を考慮した教育に改善すべきだとい

う在日朝鮮人の当然の要求すら耳を貸さない朝鮮総連の態度は、民族教育を自分たちの追従者育成につかおうとする北朝鮮の目的を示しています。

金親子の「偉大性教育」と呼ぶ個人崇拜教育などが生徒たちに二重思考を強要しているとして「胸が痛む」という率直な声や、もっと韓国のことや、金親子だけでなく朝鮮歴史上の偉人についてもきちんと教えるよう提言が盛られています。

また、専門教育も資格ももたないままに朝鮮総連の活動に追われたイルクン（朝鮮総連専従活動家）の悲哀をくりかえさせないために日本で生きていく生徒たちに専門教育や国家資格を取らせるように対策

を立てよとも提言しています。一条校（日本の学校教育法第一条に規定された学校で、いわゆる普通の学校——編集部注）に準じた法的地位をとることは「焦眉の問題」としています。これは北朝鮮式教育からの根本的転換を意味します。

心ある在日が民族教育についてどう考えているか、日本国民が耳を傾けるべき真摯な提言といえます。いま問題になっている朝鮮総連系の民族教育を考える上での参考資料として紹介します。この「要望書」は一九九九年一月十九日付けの「統一日報」に掲載されましたが、翻訳にあたってこれを参照しました。

（翻訳「光射せ」編集部）